

Closure report 2026

終了報告書

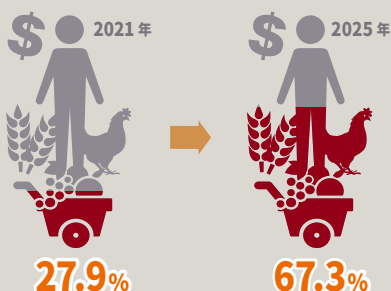
Bangladesh People's Republic
 Bilal Regional Development Program
 BGD-186137 (2007年～2026年)



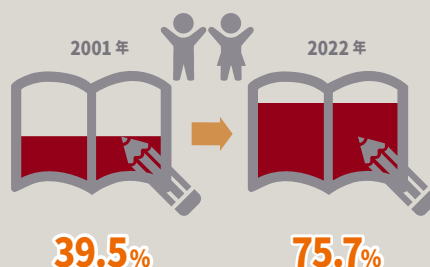
ありがとうございました

皆さまのご支援により、人々が変わり、地域が変わりました

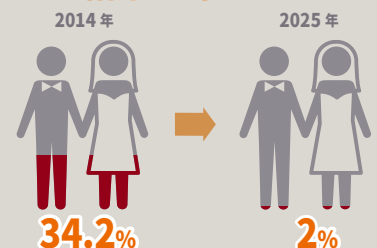
複数の収入源を持つ世帯



7歳以上の識字率



未成年(13～18歳)で結婚した子ども



Education



教育

学びの環境を整え、
子どもの成長を支援

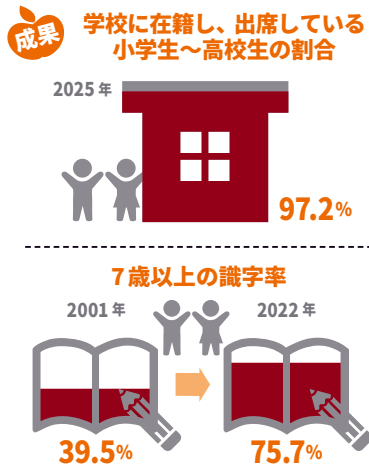
地域では、貧困や児童労働・児童婚、学習環境の不足、保護者の教育への理解不足などを背景に、多くの子どもたちが継続して通学することが難しい状況が続いていました。家庭でも親子が気持ちや悩みを話せる機会は乏しく、子どもたちは学びへの意欲や自信を持てずにいました。こうした課題に対し、ワールド・ビジョンは教育の重要性や児童婚・児童労働の予防について保護者へ啓発するとともに、子どもの話に耳を傾け寄り添う関わり方を伝えていきました。学校環境の面では、教員を対象にした研修、教材の提供、教室の改修も図りました。こうした取り組みの結果、子どもたちが安心して学べる環境が整い、出席率の向上や読み書き能力の改善へとつながっています。



支援前 壁のない、古びた校舎



支援後 新しく建設された教室で、壁いっぱいの掲示物の前で学ぶ子どもたち



Livelihood



生計向上

収入源の多様化で
安定した暮らしを実現

住民の多くは季節農業や日雇い労働で生計を立てていましたが、洪水や物価変動の影響を受けやすく、多くの家庭が貧困に苦しんでいました。こうした状況を改善するため、ワールド・ビジョンは地域組織と連携し、農業や家畜飼育、小規模ビジネスなど収入源を増やす支援を行いました。また、家計管理を学ぶ研修や、女性や若者への職業訓練も実施。さらに、貯蓄・生産者グループを通じて、種子や家畜の提供や販路開拓を支援しました。その結果、収入源が多様化し、家計を計画的に管理できるようになったことで、子どもに必要なものをそろえられる家庭が増えました。女性の収入向上と社会参加の拡大は、家庭生活の安定にもつながっています。



支援後 家畜の提供を受けた親子



支援後 縫製研修とミシンの支援を受けた女性



Health, Nutrition & WASH



保健栄養・
水衛生

継続的な支援を通して
子どもと母親の健康を守る

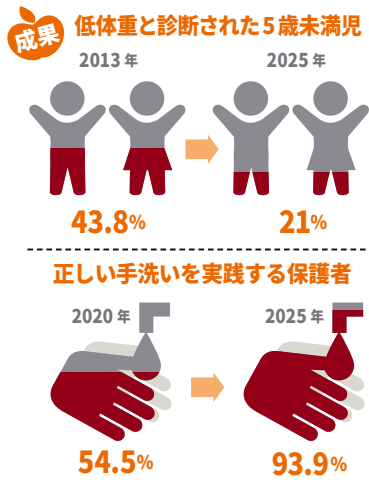
地域では、栄養や健康、衛生に関する知識が十分に広がっておらず、安全な水や衛生的なトイレも普及していなかったため、子どもたちは栄養不良や下痢などの感染症に苦しんでいました。また、医療へのアクセスも限られ、妊娠・出産期の母親も必要なケアを十分に受けられない状況でした。そこで、ワールド・ビジョンは5歳未満児の栄養状態の確認や、保護者を対象とした栄養のある食事づくりに関する研修を実施するとともに、家庭用トイレや飲料水設備を整備しました。さらに、正しい手洗いや衛生習慣の普及、地域の保健センターとの連携を進めた結果、安全で衛生的な生活環境が整い、子どもや母親たちの健康状態も改善しています。



支援後 子どもの栄養状態を計測する様子



支援後 栄養のある食事の調理方法を学んだ母親と、食事をする子ども



Child Protection



子どもの保護

安心して成長できる
地域づくりを推進

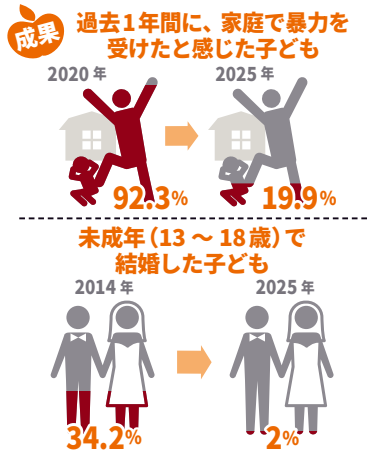
以前は、貧困により多くの子どもがレンガ工場や飲食店、自転車やバイクの修理店の手伝いといった日雇い労働に従事していました。また暴力や児童婚など、子どもの権利や安全が守られない状況が常態化していました。ワールド・ビジョンは家庭への働きかけに加え、地域住民や宗教リーダーを対象に、子どもの権利や暴力に頼らない関わり方について学ぶ機会を提供しました。また、子どもたちに対しても啓発活動や子どもたちが主体となって参画するイベントなどを実施し、ライフ・スキルやリーダーシップを育む活動も行いました。地域で子どもの権利や安全への理解が広がった結果、暴力や児童婚の減少につながり、子どもたちが安心して過ごし、成長できる環境づくりが進んでいます。



支援後 研修を通じて、自信や主体性を育む子どもたち



支援後 子どもフォーラムに参加し、リーダーとして活躍する女の子(左端)



マネージャーよりごあいさつ



ピロル地域開発
プログラムマネージャー
アンティナ・ダス

19年にわたり温かいご支援をお寄せくださった日本のチャイルド・スポンサーの皆さまに、心より感謝いたします。ワールド・ビジョンは、貧困や栄養不良、教育機会の不足、児童婚や児童労働といった課題に向き合いながら、地域の子もたちと家族に寄り添って活動してきました。2017年の洪水や新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の暮らしは大きな困難に直面しましたが、保健・栄養支援や生計向上、子どもの保護などの活動を通じて、多くの家庭が希望を取り戻しています。特に、地域での継続的な啓発活動により、245件の児童婚を防ぐことができました。皆さまのご支援は、子どもたちが安心して学び、未来へ向かって歩む力につながっています。

支援終了後も
地域で続く取り組み



水衛生に関する活動について話し合う地域住民

ワールド・ビジョンは、支援終了後も地域の人々が活動を続けられるよう、地域組織や若者グループの育成を進めてきました。現在では、村落開発委員会が中心となり、これまでの支援によって実現した成果を維持・発展させるための取り組みを進めています。児童婚や児童労働を防ぐ取り組みでは、宗教指導者や地域のリーダー、子どもフォーラムのメンバーが啓発活動や家庭への働きかけを担っているほか、保健センターや水衛生施設の維持管理にも地域住民が主体的に関わり、課題の解決に向けて行動する体制が根づいています。ワールド・ビジョンの支援を通じて育まれた地域の力は、これから子どもたちの未来を支え続けていきます。

皆さまで歩んだ 19 年間の支援と成果

準備期

2007 年度
▼
2008 年度

- ◎ 子どもを取り巻く課題やニーズを調査
- ◎ 支援分野（教育・生計向上・保健栄養・水衛生・子どもの保護）の特定
- ◎ 地方行政、地域住民、宗教リーダーとの協力体制を構築
- ◎ 地方自治体および地域住民とともに、支援活動の実施計画を策定



支援開始当初の一般的な住居

第 1 期

2009 年度
▼
2015 年度

- ◎ 就学前教育や学習支援を通じて、子どもの就学準備を推進
- ◎ 学用品の提供や教室整備を行い、学習環境を改善
- ◎ 発育測定や栄養改善活動を通じて、子どもの栄養状態を改善
- ◎ 家庭用トイレや深井戸を整備し、安全な水と衛生環境を整備
- ◎ 農業・家畜飼育支援や家庭菜園を通じて、家庭の収入向上を支援
- ◎ 子どもフォーラムや村落開発委員会を設立し、地域主体の活動を推進
- ◎ 児童婚や児童労働を防ぐため、地域での啓発活動を実施



就学前教育センターに通う子どもたち

第 2 期

2016 年度
▼
2021 年度

- ◎ 生産者グループや貯蓄活動を通じて、収入源の多様化を推進
- ◎ 女性や若者を対象とした職業訓練を実施
- ◎ ライフ・スキル教育やリーダー育成を通じ、子どもの主体性を向上
- ◎ 気候変動に対応した農業や栄養価の高い作物栽培を普及
- ◎ 地域の保健センターと連携し、保健医療サービスを改善
- ◎ 宗教指導者や地域組織と協力し、児童婚や暴力の防止活動を推進
- ◎ 新型コロナウイルス感染症への対応として、衛生啓発や地域支援を実施



マッシュルーム栽培を通じて収入を増やした男性（右）

第 3 期

2022 年度
▼
2026 年度

- ◎ 地域組織の協同組合登録を進め、地域主体の運営体制を強化
- ◎ 女性の意思決定への参加を促進し、家庭や地域での役割を拡大
- ◎ 収入源の多様化や貯蓄活動の定着を通じて、生活の安定化を推進
- ◎ 行政や地域組織と連携し、子どもを守る地域の仕組みを定着
- ◎ 持続性計画と移行計画を策定し、支援終了後への準備を実施



ワールド・ビジョンによる支援終了後の計画を話し合う住民

支援を受けた家族のストーリー

家族で築いた希望あふれる未来

11 歳のリヤドくん（右端）は、両親と妹の 4 人家族です。以前は土の壁とトタン屋根でできた簡素な家に住み、収入は日雇いの労働をする父親のわずかな稼ぎのみでした。家計は苦しく、十分な食事をとることも、学費を支払うことも難しい状況だったといいます。

そんな一家に転機が訪れたのは、2019年にリヤドくんがチャイルド・スポンサーシップの支援を受け始めたことがきっかけでした。母親は生計向上の研修に参加して、家畜の飼育や家庭菜園について学び、その後、雌牛や野菜の種の支援を受け、学んだことを少しずつ家庭で実践していきました。さらに、家族で協力して貯蓄や家庭菜園、ミズ堆肥づくりにも取り組むようになり、育てた野菜や卵、ニワトリを販売することで、徐々に収入は増えていきました。

現在では、毎日牛乳や野菜を食べられるようになり、リヤドくんと妹の栄養状態も改善しました。レンガ造りの安全な家に住めるようになり、学用品や衣服を準備できるようになるなど、生活は大きく変化しています。

リヤドくんは話します。「前は暮らしがとても大変だったけれど、今は安心して生活できています。ぼくは将来、学校の先生になることが夢です。その夢をかなえるために、毎日頑張って勉強しています」

